

# 令和6年第7回沖縄県教育委員会（定例会）議事録

## 1 開会及び閉会に関する事項

令和6年5月16日 午後3時開会  
午後3時42分閉会

## 2 出席者及び欠席委員の氏名

### (1) 出席者

委員 小濱 守安                      委員 比嘉 佳代                      委員 大城 進  
委員 宮城 光秀                      委員 辻上 弘子

### (2) 欠席委員

教育長 半嶺 満

## 3 説明のため会議に出席した職員の職氏名

教育管理統括官	田代 寛幸	教育指導統括監	崎間 恒哉
参事	宮城 肇	参事	諸見 友重
総務課長	平田 直樹	学校人事課長	池原 勝利
学校人事課長	池原 勝利	県立学校教育課長	屋良 淳

## 4 議事関係

### (1) 開会

小濱教育長職務代理者が開会を宣言した。

### (2) 議事日程の決定

議事日程は会議資料記載の日程案のとおりとすることが決定された。

### (3) 令和6年第6回議事録の承認

全会一致で、令和6年第6回議事録を承認した。

### (4) 議事録署名人の指名

小濱教育長職務代理者が宮城委員を議事録署名人に指名した。

### (5) 報告事項

報告事項1 令和6年度実施沖縄県公立学校教員候補者選考試験の志願状況について

#### 【説明（学校人事課長）】

令和6年度実施沖縄県公立学校教員候補者選考試験の志願状況について資料に基づき、報告を行った。

【質疑等】

- 宮城委員 応募者数を報告していただいたところですが、それぞれの志願倍率を教えてくださいませんか。
- 学校人事課長 最終合格者数はこれから決定するため、選考試験実施要項に記載されている採用予定者数を基にした倍率について申し上げます。小学校が2.8倍、中学校が特別支援学校含めまして5.3倍、特別支援学校の小学部が10.8倍、特別支援学校小学部以外につきましては11倍、養護教諭が35倍、高等学校が14.9倍となっております。
- 宮城委員 小学校、中学校に関して昨年度より志願倍率が低下しており、特に小学校においては2.8倍ということで3.0を切っており、倍率についても上げていく必要があるかと思われまますので、なお一層の努力をお願いしたいと思います。
- 辻上委員 教員不足の中で新規受験者を呼び込むための策にはどのようなものがあるのでしょうか。
- 学校人事課長 まず、大学生4年生に対しては、これまでも選考試験の説明会等を行っています。今年度はさらに4年生以外を対象にした説明会の開催を試みたいと考えております。あわせて臨時的任用職員の経験者や免許を所持し他の仕事をされている方へ向けて、ペーパーティーチャーセミナーの実施等を行っています。参考までに申し上げますが、来週5月25日に最初の教職セミナーがあり、ペーパーティーチャーのみならず、大学生や高校生へのキャリア教育の一環としても、教職へ興味のある方へ呼びかけを行っています。
- 辻上委員 精神疾患を予防するための事前研修を内定者に向けて行う計画等はおありでしょうか。
- 学校人事課長 心身の健康については、働き方の部分も重要だと考えています。今年3月に策定した働き方改革推進計画にも軸として、心身の健康がありますので、具体的な取組を関係課とも調整しながら進めていきたいと考えています。
- 比嘉委員 大学等推薦の条件等は何でしょうか。
- 学校人事課長 資格としましては、成績が優秀であることです。具体的には、大学4年生であれば、大学1年生から大学3年生までGPAが、4点満点であれば3.0点以上、5点満点であれば3.75点以上の方が対象となります。なお、今回が初めての導入ですので、経過措置として出願時に大学4年生で令和6年4月以降に臨任等として勤務している方についても対象としています。また、短大の場合も資格を満たす場合は対応可能です。

- 大城委員 昨年度、令和5年度は、志願者が令和4年度に比べ128人増加したことから皆様のご努力を評価しました。しかし、今回令和6年度は、全ての校種において志願者が減少し昨年度比で合計413人減となっています。本県においても全国同様教員不足の課題はその状況からも実に厳しいものがあると再認識致しました。釈迦に説法とは思いますが、今回の志願者の減少についての判断は、文科省や関係機関等の試験早期化の効果検証等を待ってから行うことが賢明だと思っています。その点を踏まえたうえで次の件についてご教示願います。まず、志願者2,584人中の令和7年3月大学卒業見込み、いわゆる現在大学最終学年生の割合は、昨年度に比べ全体的に減少の状況はどうか。
- 学校人事課長 新卒と考えられる方が420名いらっしゃいます。その割合としては16.25パーセントとなっております。令和5年度が439名で14.65パーセントとなっております。人数的には19名ほど減っていますが、率については若干上がっています。
- 大城委員 分かりました。2つ目に、今回大学等から推薦のあった者で一部試験免除者181人が報告されています。今回は取組初年度による特例として、令和7年3月大学卒業見込み者、現在大学4年も対象と聞いていますが、その人数と割合をお教示願います。
- 学校人事課長 例外として認めている方は14名となっております。
- 大城委員 分かりました。志願者を増やすには教員か他の進路かで迷う「浮動層」の学生を引き付ける必要がある。また、学生は学校現場の状況をよく見ているとのこと。現下教職人材の確保に向けては、行政並びに各学校が学校における働き方改革に本腰を入れて取り組み、教職の魅力の向上に向けた職場環境づくりが欠かせないとする識者がいます。まさに、このことは所管課の志願者減少対策の基本的な考え方であります。その視点からも所管課の皆様には、今後も実効的な取組を粘り強く継続されて、また働き方改革推進課を始め庁内関係課と連携した取組も期待します。頑張ってください。
- 小濱委員 6月の選考試験から卒業までは結構な期間があります。その間に教師の働き方の目に見える改善や、夢のある教師のかたちが打ち出されないと、採用しても進路変更される可能性も十分あると思っています。子ども達の未来を作っていく大事な仕事ですので、十分な人材を確保して働き甲斐のある職場であるということを、アピールしていただければと思います。

(6) 議案審議

議案第1号 沖縄県立高等学校管理規則の一部を改正する規則について

【説明（県立学校教育課長）】

沖縄県立高等学校管理規則の一部を改正する規則について資料に基づき、説明を行った。

【質疑等】

- 辻上委員 生徒の希望と実際のクラス分けの擦り合わせはできるのでしょうか。

- 県立学校教育課長 球陽中学校から 80 名の生徒が、いわゆる内進生として上がってまいります。入学試験を受けて入学してくる生徒が 200 名おります。合わせてこの 280 名が全て文理探究科ということで、1 年生のときには基礎的なものを学びます。2 年生に上がる際に、希望制で理系と文系に分かれます。学校側のこれまでの理数科と国際英語科の割合、希望の数等を勘案して、2 年から文系理系に分ける場合、理系 4 クラス、文系 3 クラスに分けるということで想定しております。これは今までの実績に基づく想定であるため、実際にスタートして教員数等は状況に応じて教育委員会と連携しながら決めていくというようなかたちになります。
- 大城委員 別表第 1、第 3 条関係から、いくつかお聞きします。今回提案された改正案の文理探究科は、普通科または専門学科のいずれですか。ご説明をお願いします。
- 県立学校教育課長 専門学科でございます。
- 大城委員 繰り返しますが文理探究科は、2 年次は理系 4 クラスと文系 3 クラスに編制する。そして、3 年でもそのクラス比率は固定する。その理解でよろしいですか。
- 県立学校教育課長 理系 4 学級、文系 3 学級になると想定しています。
- 大城委員 提案の学科名変更に伴うそれぞれの理系及び文系に特化した専門学科で編成される教育課程、特に各教科・科目等については、現行学習指導要領、本県教育課程編成の手引き等に則っていること。具体的に、各学科に共通する必履修教科・科目等や専門学科における各教科・科目の履修については、本日 16 日現在、教育課程表として体系的・系統的に編成・準備されているとの理解でよろしいでしょうか。
- 県立学校教育課長 はい。
- 大城委員 確認しました。最後に、今回の学科名変更に伴うそれぞれに相応しい教育課程の編成と教育活動を通じて、当該球陽高校から示された生徒の理系・文系のミスマッチ等の進路指導上の課題の解決に効果的に資することを願っています。併せて、当高校がこれまで地域の拠点校、本県を代表する進学校として担ってきた役割をさらに進化・発展されることを切に期待しております。応援しています。
- 宮城委員 附則の 2 に「改正後の別表第 1 の規定にかかわらず、令和 9 年 3 月 31 日までの間、なお存続するものとする。」とありますが、留学等でこの日までに卒業しない現行学科の生徒の卒業時点での卒業学科はどうなりますか。
- 県立学校教育課長 例えば留学をした生徒で、帰ってきて球陽高校で卒業する場合には、入学時の教育課程に基づいて卒業単位の認定ができれば卒業が可能ですので、仮に令和

9年3月31日までに戻れなくとも、入学時の教育課程は保証されておりますので卒業は可能でございます。

○比嘉委員 理数科と国際英語科で偏差値が違うのではないのでしょうか。違うのであれば文理探究科になるときにどのようなようになるのでしょうか。

○県立学校教育課長 学力等の差については、現時点ではほとんどないと思っております。また、その生徒の適性を見て、丁寧に学力を伸ばしていくようにカリキュラムを編成しております。

○小濱委員 中学で理数科、国際英語科の選択はなかなかピンとこないけれども、高校に入学し同じように進学を目指す子ども達が集って話をし、切磋琢磨して勉強していくうちに、自分の目指す道は開きやすくなると思います。そこに学校から、進路指導として、理系文系それぞれの勉強方法や求められるものの情報を与えることによって、子ども達の道は大きく広がると思うので、2年目に理系と文系に分かれるというのはいいと思います。地域の拠点校がどんどん発展していくことを願っていますし、良い改正だと思っております。頑張ってください。

#### 【採決の結果】

全会一致により、原案のとおり可決された。

(7) その他  
特になし

(8) 閉会  
小濱教育長職務代理者が閉会を宣言した。